

第5回島田市審議会 会議要録

1 日時

平成29年3月23日（木）19:00～20:45

2 場所

島田市役所 4F 第三委員会室（南・北）

3 出席者

委員：朝比奈委員、石間委員、大石委員、小倉委員、佐久間委員、杉本委員、鈴木委員、園部委員、村田委員、森委員（五十音順）

事務局：牛尾理事、鈴木市長戦略部長、田中戦略推進課長、駒形係長、小野係長、大和田主査、太田原主事、福山書記

ランドブレイン株式会社 植野

傍聴者：1名

4 内容

（資料確認）

・事務局より（次第、事前配布資料1～3、当日配布4～6）

（会長あいさつ）

・年度末のお忙しいところ、お集まりいただき感謝する。早速であるが議事に入りたいと思う。本日もよろしく願います。

（報告）

（1）島田市総合計画の策定に向けた市民意識調査について

資料4-1、4-2、5-1、5-2、6-1、6-2に基づき、大和田主査より説明

【質疑応答】

A委員：高校生と中学生アンケート結果も構想案に反映されていると考えていいのか。

事務局：全体としては、資料4～6のアンケート結果は今回の第2次総合計画の策定のためのアンケートであり、資料1の基本構想案に入れさせていただいている。なお、資料1P14等にあるのは第1次後期基本計画に関するアンケートの結果で、これまで積み上げられてきたものであり、それらの内容も反映している。

A委員：文言とか、構想全体にちりばめられていると考えればよろしいか。

事務局：その通り。

副会長：P14の冒頭の説明として、「住民や高校生、中学生、各世代の意見もふまえている」のよう
に分かりやすくした方がいいだろう。

事務局：そのように少し文言を整理したい。

(議題)

(1) 基本構想(案)について

資料1、2、3に基づき、大和田主査より説明

【質疑応答】

会 長：施策の大綱及び柱の構成についてご意見をいただき、その後決定としたい。

副会長：「施策の大綱」という語句の意味合いはどう考えればいいだろうか。もう少し砕けた言い
方、例えば、重点的に取り組むキーワードはこういうことですよ、のように分かりやす
い表現の方がいいのではないか。

事務局：市では、「大綱」という言葉をずっと使ってきたところであるが、他の例では「政策分野」
と呼ぶこともあるようだ。内部的に、大綱の表現で慣れすぎていた部分もあるが、ご意
見として扱わせていただきたい。

会 長：民間企業では使わない表現であろう。

B委員：大綱2つめの子育て・教育の所であるが、社会教育課をはじめ子育て応援課の方も、子
供に対する支援はもちろん、親に対する、親育的な要素も「子育て」に入っていると思
う。その辺りの内容は何処かに入っているだろうか。

事務局：2か所に含んでいると考える。1つは、柱の2番目、「地域ぐるみの教育環境をつくる」
というところ、この辺については現在教育大綱というものをつくっているところで、そ
ちらでも「地域で」という部分に重点を置いており、子供だけではなく親も、という意
味で扱っている。もう1つは下から2番目の「地域で学びの力を発揮する人材をつくる」
のところで、子供の時代からのこともあるし、大人も含めてのことで、ここにも親の視
点が入ってくるだろう。

B委員：「地域で」ということが入ってくるのはうれしいと思う。現在住んでいる町内に駄菓子屋
がなく、子供達のために地域の老人達が何かしてあげたいということで、地域の公会堂を
使って駄菓子屋を開くといった取組もみられている。

C委員：資料1、P25の将来都市構造の区分として、富士山静岡空港も入るのではないか。

事務局：区分の「軸」の要素として考えたい。

D委員：大綱2の子育て・教育のところ、前回までは（健康づくり）という形で表記されていたが、今回はなぜ（スポーツ）に限定されるのか。囲碁や将棋もスポーツと考え、生涯学習面なども含んでいると思うが。

事務局：策定委員会の方で（健康づくり）という語感からは、大綱1の内容になるのではないかという議論があった。生涯スポーツというのは健康づくりの面も多いが、一生かけて何かに打ち込める環境をつくっていくべきという議論から、このまま大綱2子育て・教育に残し、（健康づくり）ではなく（スポーツ）と言い換えたというのが経緯である。生涯学習という言葉もあるだろうが、「ひとり1スポーツ」を進めていく表現として、生涯スポーツと記載している。

会長：「スポーツ」という語には一説には囲碁将棋、チェスも含むという解釈もあるようだが、一般的に日本語でスポーツというのと運動全般ということになるだろう。「生涯スポーツ」というのは1つの括りになるのだろうか。「生涯」、スポーツに親しむ…とかいう表現の略と考えるのか。

事務局：日常生活のなかに自分の趣味として取り入れていくスポーツのこととして、「生涯スポーツ」一語の使用例がある。競技スポーツとは違うという概念でもあるようだ。

会長：解釈が多様になってしまうのだろう。

事務局：少し再検討とさせていただきたい。

D委員：大綱2、柱の下から2つ目であるが、「地域で学びの力を発揮する人材をつくる」という言い方であるが、人材はつくってもらものなのか、という気持ちになるというのか、少し卑屈な感じになるような気がする。学ぶのは別に地域のためだけでないのでは、という気持ち。

会長：なるべく誤解のないような表現としてはどうか。

事務局：庁内で意見照会を行った中で、先ほどの生涯スポーツでは、主に人をつくるという趣旨に対し、ここは、リーダー的存在をつくる、ということではないかという議論になり、「人材」という記載に替えたのが経緯であるが、表現として再検討とさせていただきたい。

会長：指導者というか、リーダー、音頭をとってくれるような人を、応援し発掘し、やりたいという人を育てるといような趣旨であろう。

事務局：引っ張って行ってくれる人の意味で人材という表現にしている。

会長：例えばアメリカのトランプ大統領ならどういう順番にしているだろうかと、大綱を眺め

た。それは、政策の理念の視点からどう並ぶかということ。それから文言が、中学生や高校生でも分かりやすく、ピンとくるか。頑張ろう、という気持ちを起こさせるか。そういう表現になっているといい。

E委員：今の項目のところで、人材をつくるとか、楽しむ人をつくるというような表現だが、こういうところに、行政が積極的関与するようなことには違和感がある。

事務局：現案では言葉尻を揃える意味合いもあって、全体的に「つくる」という記載が多いところだが、この辺りも再検討とさせていただきたい。「育てる」という方がいいのかもしれない。

会長：環境とか道路なら「つくれる」が、人はなかなか「つくれる」ものではないということだろう。「人材を育成する」または、「スポーツを楽しむ人を増やす」のような言い方が馴染むのだろう。

副会長：アンケートと同時に配付した資料として「島田市歌」が掲載されている。事前送付資料で頂いた封筒には「平和都市宣言」があり、ほか「市民憲章」も最近つくられたとか、島田市に対する想いといったものが色々あるだろう。例えばこういったところが総合計画の将来像に込めた思いにも多少リンクしてもいいのではないかと思った。

現在大綱が7つあるが、市には島田市緑茶化計画とか、まち・ひと・しごと総合戦略とか、都市計画、ほか様々あるが、総合計画に7つの大綱があって、様々な計画を達成していくことになっているとした時に、その計画はどこから生まれたのか、この大綱と紐づけされていると分かりやすいと思った。

事務局：宣言や憲章といったところは、“政策”というよりは“想い”である。市歌をつくった際にもそういった想いがあってのことは承知している。実際の政策を実施していくにあたり、こういうことを将来像に込めた、というのが総合計画の表現であると思っている。しかし、ご指摘の内容を全てリンクさせるというのは難しい。

この総合計画というのは市の最上位の計画であり、ご指摘の各計画を策定する際には総合計画の内容を確認し、整合がとれるようにつくられている。今しているのは、これから先のことを柱として挙げる作業。すると、各計画は今後また見直しがされていき、その時は今検討している柱の内容を確認・整合しつつ改訂されるという仕組みになっている。ご指摘の各計画と現在（第1次）の総合計画について、整合が図られているという理解である。

なお、大綱の順番にも想いが含まれている。過去の計画では、都市基盤から始まっていたのだが、これからは、何でもつくればいいという時代ではないという「ハードからソフトへの転換」という意味が込められている。

副会長：今までそのような流れで計画をつくられていたならば、これからつくる計画も、総合計画を基としてつくります、という流れがあると分かりやすいと思った。

D委員：資料1、P26大綱の冒頭について、かつては「財政再建」ということが一丁目一番地に謳われていたが、今回の順番では7番目となっている。イメージとしては7番目というよりは、6つの分野を7番目（行財政）が繋いでいる、ということでもいいのではないか。

事務局：行財政分野はこれからも重要視していかなければならないものと認識している。ただ、今回の総合計画では、市民の主体性といった要素を前面に出して行きたいという趣旨で、このような序列になっている。

A委員：資料1P1、総合計画策定の視点①「人口減少、少子化・超高齢社会の克服」と記載があるが、資料3でみると、その辺りに対応するのは主に大綱2の内容だと思う。しかし、内容から、“克服感”が伝わってこない。

先般、「人口減から未来を発明する」というフォーラムに参加した際の資料（大学生がつくる未来への羅針盤政策提言（静岡県健康福祉部こども未来局こども未来課））に、7つの大学で考えられた、少子化突破のアイデアというものが入っている。そこから重要なキーワードを拾ってみると「生涯に渡る意識の改革」、「ライフデザインを中長期的に」、「子育てを男性も女性も学べる」、「ワークライフバランス」、「性別役割分担の固定意識を捨て去る努力が必須」というように、生き方を、人生を通して学び実践する、そこをガツンと変えるべきだという話が載っている。また別のフォーラムの話題（静岡県立大学の鬼頭宏学長（旧）社人研の報告書）から、40年前に描いた人口減少の推計値が現在とぴったり合っているという。それで、資料1P2、(3)人口ビジョンとの関係のなかにグラフがあるが、総合計画期間に約9万2千人確保というのはクリアできるだろうが、その先の2060年で8万人確保の部分（本来6万人まで減少すると予測）に対しては、逆算して、今から市が何か「ガツン」とアクションを起こさないと8万人確保は厳しいのではないか。策定の視点にある「克服」というエッセンスが反映されていないと思う。

事務局：社人研推計の認識はある。昨年度あたりから、国の政策としても地方創生が出てきて、各市町に総合戦略をつくるように言われてきた。島田市も人口ビジョン、総合戦略をつくり、まちとして生き残るための対策を打っている。それで、今ご指摘のように、大綱2で受けている部分もあるが、大綱2だけで担うのではなく、先に策定している総合戦略を受けて基本構想の大綱としてバランスよくもっと色々な施策の方向を包含していくための検討を並行して行っている。それは、外部からの人の流入であったり、産業の活性化であったり、多方面からの対策が必要になってくるということで、具体的には基本計画で展開することになっている。

A委員：組み立ては理解したが、大綱2の柱5つのなかに文言としてでも例えば「少子化の克服…」というように入ることはないのか。

事務局：総合戦略の方にはいくつかご指摘の文言が出てきていると思う。そこと整合を取りつつ、これから基本計画をつくっていくので、その段階で出てくる言葉だと考えている。

理事：地方創生の流れから先に島田市の人口ビジョン・総合戦略がつくられているが、この総合計画とは別のものというのが国の見解として出ている。双方整合を取りながら進めていくが、今のご指摘は総合戦略の内容として議論していただくところかと思う。

A委員：この子育て・教育というところが、子供だけではない、地域や大人まで生涯をかけて学んでいくというようなスタンスが大事だと思う。自然発生的に、人が育っていく「土壌」をつくるということが重要だと思う。

会長：資料1P1の策定方針①であるが、人口減少、少子化・超高齢化自体は既に起きていることであり、その克服というよりも、そこから起きてくる課題を克服すると言うか、克服できないまでも、上手い対処の仕方を考えるという方が現実的な表現なのだろう。課題の克服ぐらいにしておいた方がいいのかもしれない。

事務局：改めて、総合戦略の方では「人口減少問題の克服」と表記している。総合計画でも「…による課題の克服」とした方が分かりやすくなるのだろう。

A委員：減っていくことは必然だとして、問題なのは年齢構成、高齢者が増加することで起きてくる問題ということ。人口が減っていても、ひとりひとりが質の高い人間になっていく、次へのステージへ繋いでいくという、その意識改革だったり、教育だったりが大事成らなってくると思う。そういったところが島田市の豊かさにつながるような施策が全体を通してつくられて行くといいと思う。

D委員：資料3、大綱4環境・自然、柱の4番目、「住みよい生活環境をつくる」の括弧内にある「人権」は他の項目に含めた方がいいのではないかと。大綱7の行財政か、大綱2子育て・教育か分からないが、この場にあるのは今の時代に逆行している気がする。

事務局：男女共同参画社会の形成という趣旨で、「住みよい生活環境をつくる」の内容として区分した。

会長：男女共同参画とすると範囲が広いので「どこ」というのは収まり難い理念であるが、どうするか。

D委員：男女共同参画社会…の表現をどこかと同じにしてまるめるべきではないのではないかと。

事務局：住みよい生活環境をつくる、という項目には入ってくると思うが、後ろの括弧内の表示として「男女共同参画」を入れておくべきだろう。そこを含めてもう少し検討させていただきたい。

理事：これから施策・事業を具体化していくにあたって、その内容が複数の大綱にぶらさがることもあるだろう。

事務局：現在の基本計画でも「関連取組」という表記で、同種の事業が他の大綱にある場合には漏らさず表記するようになっている。新しい計画でもそのように記載していきたい。

D委員：沢山、色々な所に出てくる内容だとは思う。ただ、柱として名前があったものが無くなるというのはどうなのか。

事務局：再検討させていただきたい。

会長：男女共同参画ということなら、生活環境というよりは、社会環境あるいは制度のことになるのではないかと。「環境」という中に、社会制度或いは意識を変えていこうといった理念を加えてもらう方向で検討いただければいいのではないかと。

A委員：大綱1、防災・健康・福祉の考え方として、命と人としての尊厳の話を1番の柱に据えたいように思っている。それで、人権或いは男女共同参画というのはここに入ってくるのではないかと。また、この大綱、柱という言い方も、土壌、基盤ではないかと思う。

副会長：意見として。まず第1次総合計画における重点プロジェクトや施策の検証があって、第2次計画に進んで行く、という流れがあった方がいいと思う。もう1点、将来人口の値として現状にそぐわない数字があるように思われるが、正しい数字というのはどうなのか。

事務局：資料1の基本構想で示している将来人口のベースになっているのは人口ビジョンの数値であり、国勢調査人口が使われている。一方、近年10万人を切ってきたということで表に出ている数値は住民基本台帳がもとになっており、集計方法の違いで住民基本台帳の方が国勢調査値より多いという違いがある。そういった説明の補足をしなければならぬだろう。

計画の評価については本期間が平成29年度までとなっているため、今後の実施になるが、できるだけ早期に着手したいと思っている。

会長：構想案の内容については、本日出た意見を基に私と事務局で擦り合わせて、次回お示しさせていただきたい。

(2) 総合計画導入部について

資料1に基づき、大和田主査より説明、牛尾理事より、現計画評価の記載（島田市総合計画市民意識調査結果P14～16）確認、総合計画の進行管理の実施について補足

【質疑応答】

会長：「青字」の部分が前回ご意見以降、修正等がなされた箇所となっている。

F委員：P19、④産業・経済の内容としても情報通信技術（ICT）に関する記述が必要ではないか。

事務局：そこも含めて次回までの検討案を考えたい。

会 長：産業経済の方がICTという言葉は馴染むであろう。2か所に記載されていても問題だということではないだろう。

G委員：土地利用の関係で、他所では山間地を開墾してつくった茶園が放棄されると元の山林地に戻すというのが自然、地域を守るという流れがあるが、島田市は少々違っているので、基本計画で内容を精査してもらい、実のある計画としてもらいたい。

E委員：資料5-1高校生アンケートの中にのみ、市内外の区分があるが、市外在住者の意見というのも客観的な視点として興味深い。例えば市外から市内へ勤務している人(通勤者)の意見なども重要だと思う。

事務局：市外からの通勤者への調査もやってみたいが、学校と違い企業への依頼というのはなかなか難しい面がある。今後の課題とさせていただきたい。

会 長：インターネットの利用ということも考えられる。しかし、信憑性の問題はある。企業にアンケートを送れたとしても回収率が低い場合も多く、工夫が必要な部分である。他に意見も無いようなので、導入部の内容についても、ご意見を反映した形で次回、お示ししていきたい。

(その他 事務局より)

- ・次回審議会開催について(4月26日(水)19:00~20:30)
- ・会議資料の事前送付について

20:45 会議終了